改地名

爲云僧俸焉、豈不惑乎、亦不悲乎、

〔南留別志〕二荒を、補陀落とし、音にてよみて、にくわうといふを、日光とかき替たるを見れば、ふるき事は、考へ得がたき事おほかるべし、

〔出雲風土記 出雲郡〕健部郷、〇中略、故云宇夜里、而後改所以號健部之、〇下略

〔豊後風土記 直入郡〕俗曰直生村、後人改曰直入郡、

〔肥前風土記 養父郡〕鳥樔郷、〇中略

因曰鳥屋郷、後人改曰鳥樔郷、

〔播磨風土記 揖保郡〕大家里、舊名大宮里、土中上、品太天皇、〇應神巡行之時、營宮此村、故曰大宮、後至田中大夫爲宰之時、改爲大宅里、

大法山 今名勝部岡、〇中略

少宅里、本名漢部里、土下中、所以號漢部者、漢人居之此村、故以爲名、以後改曰少宅者、〇下略

〔宇治拾遺物語 二〕今はむかし、せいとくひじりといふ聖ありけるが、〇中略けちえんのために物まいらせてみんとてよばせ給ひければ、いみじげなる聖あゆみまいる、〇中略さて出て行ほどに、四條の北なる小路にゐとをまる、此ゐらにぐしたるもの共ちらしたれば、只墨のやうにくろきゐどを、ひまもなくはるゝ〳〵と共ちらしたれば、げすなどもきたながりて、その小路を糞の小路とつけたりけるを、帝聞せ給て、その四條の南をば何といふといはせ給ければ、綾の小路となん申と申ければ、さらばこれをば錦の小路といへかし、あまりきたなきなかなと仰られけるよりしてぞ、錦の小路とはいひける、

〔豊鑑 一 長濱眞砂〕明る天正二年の春、小谷山は北にさかひ、雪いとふかく、さえまさる空のくるしみあり、三里餘のいぬゐにあたり、今濱とて古き城所あり、海にそひて雪淺く、舟の往來も便ありて、